



トークイベントで会場を盛り上げる宇津木妙子副会長(左)と東京女子体育大学ソフトボール部の佐藤理恵監督

山田主将「7発」宣言

25日開幕女子ソフト
ジャパンカップ

今月25日に群馬県高崎市で開幕するソフトボール女子の国際大会「ジャパンカップ」の第10回開催を記念したトークイベントが9日、都内で開かれた。第1部では02年の第1回大会からチームを率いた宇津木妙子・日本ソフトボール協会副会長らが出演。ジャパンカップが五

輪や世界選手権の代表選考の場になったことに触れ「試合結果より、選手選考が苦しかった思い出」と振り返った。第2部には今大会に出場する山田恵里主将(33=日立)と我妻悠香捕手(22=ビックカメラ高崎)が出演。昨年4本塁打で最優秀選手に輝いた山田主将は「今年は7本くらい打つので、ぜひ見に来てください」と言葉に力を込めた。

☆紙面編集 小平 陽

東京で「金」へ一歩



日本ソフトボール協会の宇津木妙子副会長(左)と佐藤理恵さん

今月25日に開幕するソフトボール女子の国際大会「JAPAN CUP」が第10回を迎えるのを記念したトークイベント「JAPAN CUPから頂点へ！」(毎日新聞社主催)が9日、東京都千代田区の毎日ホールで開かれ、約100人が参加



した。第1部では、出場経験のある選手らが過去の大会を振り返った。監督として2000年シドニー、04年アテネの両五輪でメダルに導いた宇津木妙子・日本ソフトボール協会副会長は02、03年大会で指揮。「五輪の代表選考も兼ねていて、悩みながら寝られなかった」と当時の胸の内を明かした。08年北京五輪金メダルの佐藤理恵さんは07年大会の決勝で米国に敗れたが「相手投手の攻略の糸口をつか

むきっかけになった」と、翌年の五輪決勝での雪辱につながった逸話を披露した。第2部には日本代表選手が登場。主将の山田恵里(日立)は「若い選手が日々成長している。東京五輪の金メダルに向け、一つ一つ戦っていきたい」と意気込んだ。

【村上正、写真も】